

## 前偕行編集委員長 佐藤正さんを偲んで

柴田幹雄 陸自75

佐藤さんは私が偕行社編集委員長の時、6年間ほどその補佐をしてくれました。補佐とは言いながら実際の編集実務を全てやってくれており、本当に助かりました。彼が来るまではページの割付など鉛筆で「書いては消し」をしていましたが、パソコン活用による効率化を図つてくれました。偕行社の財政上の理由から編綴を変えたり、月刊から隔月発刊にするなどありましたが、偕行社が陸修偕行社へ脱皮する苦難の中、『偕行』の灯を消さずに守つてこれたのも佐藤さんとの二人三脚で走り続けたおかげと思っています。

『偕行』編集委員長の佐藤正さん  
が令和7年2月3日逝去されました。  
計報を受けた時、ショックで言葉もありませんでしたが、心の片隅にはやはりそうだったかという思いもありました。

して いたので 編集補佐として 佐藤さん が 来て くれて 本当に うれしく 思いました。

彼は旭川出身、防大22期（陸自78）  
高身長でスタイルもよく、明るく温厚な中にも一本筋が通つており、私

た。その集りはピアノ、ギター、ボーカルなどほぼ同年代が集まり、私はトランペット、佐藤さんはベースギターでした。ベースギターが入り、音楽が締まる感じでたいへん良くなりました。

佐藤さんは人脈も豊富で、各種の一杯会には先輩である私にも声をかけてくれ、彼が居る席は和やかで本当に楽しく飲めたものでした。佐藤さんは『偕行』編集のみならず、いろいろなところで接点があり、後藤さんとお話しする機会もございましたが、これまで

同期生の井上武さんが急遽就任する  
とのことであり、すべてを申し送つ  
て入院するというので、少し心配で  
したが、後から考えると佐藤さんら  
しい対処だなと思いました。その日  
も一緒に陸修偕行社を出て、さりげ  
ない世間話をしながら市ヶ谷駅まで  
歩き、そこでいつもどおり別れまし  
た。別れ際に何か言わないと、と思つ  
たが深刻なことは言えず、「じゃあ  
頑張ってね」とだけ言つて別れまし  
た。

その後1月は入院され、ノルカルでの連絡があり、一度家に帰り病状により入退院になるようでした。落ち着いたら見舞いに行けばいいなと思つていましたが、2月3日に逝去されたとのことでした。

て佐藤さんに申し送りました。編集  
補佐に富樫さんが来てくれ順調に編  
集は進んでいました。

佐藤さんは普通科職種で米子の第8普通科連隊長なども歴任し、朝霞の輸送学校長を最後に退官、身体強健、文武両道の好男子でした。ご自宅も近く、年をとつても飲み友達で付き合える友人だと思つていました  
が、なんと早く逝つてしまつたのか、まことに得難い友人を失いました。

続けたおかげと思っています。

からギターを楽しんでいたこと  
で、これまた私が参加している軽音  
楽の集りにも最近加入してくれまし

時佐藤さんから、偕行アートクラフトの口座通帳や出納簿、印鑑を申し受け、また年内に編集委員長も下番し

ご冥福を祈るはかりです。